

令和2年度学校自己評価システムシート (県立岩槻北陵高等学校)

目指す学校像	節度を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育む学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域と学校が共に教育力を高めていく 3 基本的な生活習慣の確立を目指し、規律ある学校生活を送る 4 生徒の自主活動を通じ、社会に貢献する心豊かな人間形成を図る
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	ここ数年、成績不振者、延べ欠点数は減少、成績優秀者は増加しているが、いずれも下げ止まり、上げ止まり傾向にある。進路ガイダンスや、基礎力診断テスト等をおし、進路に対する意識は向上してきている。進学希望者への実力養成と就職者への働く意識の向上が課題である。	(1)学習環境を整備・充実させ、学習に集中できる環境を整える。学び直しを活用し、生徒の基礎基本の定着を徹底させ、「わかる」授業をめざす。	①日々の指導を通じ、授業規律を確保する。 ②ICT活用を含めた、授業方法の工夫・改善。 ③放課後の勉強会、考査前の勉強会を実施し成績不良者の減少、優良者の増加を図る。	①「学習アンケート」の授業態度の達成率の向上。 ②「学習アンケート」の「わかる」の項目の向上。 ③欠点保持者の減少、成績優秀者の増加。			
		(2)生徒の進路意識を段階的に向上させ、生徒一人ひとりの望ましい進路実現を目指す。	①進路意識を向上させるためインターンシップを実施する。 ②JSTを活用し進路実現を図る。 ③動画配信などを行い、家庭学習を充実させ、進路実現に向けた学習を行う。	①インターンシップが実施できたか。 ②生徒の進路希望実現状況。 ③動画配信などへのアクセス状況。			
2	行事や公開授業の保護者の参加率は増加傾向にあるが、まだ高いとは言えない。学校の取り組みを、地域、近隣中学校、外部機関にアピールする。HPや一斉メールの一層の活用が課題である。	(1)HPやhokuryo.now(学校通信)を用いた情報発信をさらに充実させ、家庭や地域に本校の取り組みが伝わる体制を充実させる。	①HPの定期的な更新を行う。 ②hokuryo.nowや学年通信の定期的な発行で家庭地域との連携を図る。	①HPの更新回数。 ②学校通信や学年便り発行状況。			
		(2)学校説明会等で、在校生に参加を呼びかけ、生徒の活躍の場をより多く設定していく。	①学校説明会を工夫し、本校生徒の活躍の場を設ける。	①学校説明会での本校生徒の活躍の状況。			
3	基本的な生活習慣が身についている生徒は増加している。遅刻の延べ回数は昨年度大きく減少した。遅刻減少に向けた取り組みを継続し、欠席者減少に向けた取り組みを行う。	教職員間で生徒指導体制の共通理解を図り、学校全体として、系統的、一貫した指導を推進する。自主自立の精神の育成のため、マナー・時間管理の意識を向上させる。	①各学年で遅刻指導を実施するなど、引き続き遅刻、欠席を減少させる。 ②登下校巡回指導・昇降口での立哨指導の実施する。 ③HRや授業を通じ基本的ルール遵守の重要性を理解させる。 ④校内美化を行い、落ち着いた環境を整える。	①遅刻、欠席回数の減少。 ②近隣からの苦情、交通トラブル、事故件数の減少 ③朝指導・放課後指導の減少。 ④校内の清掃、整理状況。			
4	生徒会活動や部活動は活発になってきている。生徒の自己有用感を高められるよう、様々な場面で生徒が自ら考え、主体的に活動し、活躍できる場を設定する。特別な支援が必要な生徒が増加傾向であり、各種の支援を実施する。	生徒会を中心に、生徒の主体的な活動を促す。団活動やその他の行事を通して、生徒の自己管理能力を高める。教育相談については、外部との連携を強化するとともに、特別支援教育、多文化共生等の充実を図る。	①生徒が積極的に学校行事に取り組むようにする。 ②部活動の加入を推進し、部活動の活性化を図る。 ③生徒が地域活動に参加し、主体的な活動を身に着けさせる。 ④教育相談体制の確立を図る。	①生徒の学校行事の満足度。 ②部活動加入状況。 ③地域の活動への生徒の参加状況。 ④特別支援教育委員会、多文化共生推進委員と連携し、相談体制が構築されたか。			

学 校 関 係 者 評 価			
実施日	令和	年	月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等			